

2021年3月6日

主の平和

マイラ・エステバン・ドッキョゲンさんの支援室が立ち上がって、教区としての支援活動も本格的に動き始めています。日々のご加禱に感謝いたします。

皆様からの支援や教会での呼びかけの際に参考にしていただきたいと思います、不定期ですが情報の共有を行っていきたいと考えています。今後ともよろしく願いいたします。

在 主

マイラさん支援室一同

1. 病床にあるマイラさんの為にお祈りください。

意識の回復は難しく、誤嚥性肺炎や血栓症のリスクと戦っておられます。ただ、薄目をあけられる時もあり、頻度は多くなっているとのこと。労災による医療費支給が決まりました。

2. 独り滞在を続けられる妹のレアさんのためにお祈り下さい。

叔母のエレナさんは2月16日（火）に帰国され、やっと隔離生活が終わりました。

レアさんは、90日間の滞在ビザ延長が認められました。今月中旬マイラさんの成年後見人が確定しますので、療養計画について相談します。事故については捜査中で、家庭裁判所、検察等の他、種々の難しい応対を続けておられます。ご家族はマイラさん帰国への強い希望をフィリピン政府に伝えています。

マイラさんが転院されたため、20キロ以上離れた病院に面会を継続されています。

3. 支援室として

① コロナ禍の中で、面会が制限されていますが、可能な限りレアさんの面会が継続できるよう計画・交渉・支援を続けています。

② 支援室員の増員

青年女性信徒の増員を教区主教に提言し、種々のサポートの可能性を広げます。

③ 香川県内での支援の充実

室員である宮田執事の徳島からのサポートを定例化し、上原司祭の香川県不在時に対応します。

④ 今後の展望

日々状況が変わるため、支援室内の情報を共有し、臨機応変な対応を行います。